

県内主要文化団体へのヒアリング結果

○ヒアリング内容

藍場浜公園西エリアでの新ホール整備に対する意見を聞き取り

○ヒアリング時期

令和6年10月～11月

○ヒアリング先

県内主要文化団体（7団体）

○主な意見

ヒアリング先	意見
文化団体A	・一日も早い整備を願う。 ・できれば、舞台に船底や太夫台などの機能があればいいが、ある程度のバトン数と舞台の奥行きがあれば問題ない。 ・舞台上の演者を上から見下ろされたくないの、1階席部分だけ利用すると思う。 ・金屏風や毛氈といった舞台備品を充実してほしい。
文化団体B	・会員の高齢化が進行しており、一日も早い開館を心待ちにしている。 ・大ホールは1500席あれば十分。3層であれば1階席部分だけ利用するだろう。 ・舞台上のバトンは多い方がいい。 ・照明機器等を持ち込みする余裕がないため、基本的な機器はホール備付けにしてほしい。 ・十分な長さや幅のある花道を設けてほしい。できれば本花道にして、徳島の誇りとなるホールになってほしい。 ・小迫り、大迫りは必須。あわぎんホールは迫りの設置位置が中途半端なので、新ホールでは注意してほしい。 ・迫りの乗込口がある奈落まで、エレベーターで移動できるようにしてほしい。 ・楽屋は10部屋程度必要。うち3室以上は10畳ほどの大部屋があるといい。和室があればいいが、畳を仮設で敷く形でもいい。 ・楽屋にはメイクを落とすための水回り、照明付きの化粧前、のれん掛けが必須。 ・重たい衣装を着て移動するのは大変なので、楽屋はできる限り、舞台近くに置くべき。 ・客席の床について、傾斜のきつい階段にはせずできる限りフラットにしてほしい。 ・あわぎんホールの和室は、隣への音漏れの心配があり、他の利用団体との調整が必要になる場合がある。活動室間の防音にも配慮すべき。
文化団体C	・ロビー回りのギャラリーは、藍場浜に変わっても引き継いでほしい。 ・壁ギャラリーでもいいので、高さが確保され、スポットライトが付いたギャラリースペースを設けてほしい。 ・あわぎんホールの展示室は、什器の老朽化が顕著なうえ、梁が中途半端な位置にあったり、カーテン越しに光が入るなど、決して理想的な環境とは言えない。

ヒアリング先	意見
文化団体D	・藍場浜公園西エリアは敷地が狭いように見えるが、本当に必要な機能が置けるのか心配。 ・裏方の意見も聞きながら、使い勝手が良いホールを整備してほしい。 ・稼働率を高めていくためには、様々な用途に対応できるようにしておくほうがいいが、大規模大会や学会等を見据えれば、大ホールは1800席以上がベスト。 ・舞台の広さは、人数の多いオーケストラが来てものれるような規模にしてほしい。 ・花道やオーケストラピットといった機能は、場所が変わっても維持してほしい。 ・楽屋口は衣装や楽器を持った方が円滑に出入りできるよう配慮すべき。 ・配信ができる環境整備も必要。 ・大ホールとリハーサルを行う部屋の間は、雨に濡れないように室内移動できるようにしておくべき。
文化団体E	・あわぎんホールの今後がどのようなになるのか心配。新ホールができたから、あわぎんホールが不要ということにはなってほしくない。 ・地盤の状況、地下階の湿気の心配もあり、川の隣に建築物を建てることについて不安の声が多い。 ・今、公園を実際に利用している人への配慮も忘れないでほしい。 ・リハーサル室は必要なので、モデルプランに入っていてほっとしている。 ・ギャラリーを新ホールの中に入れてほしいとの意見も上がっている。 ・あわぎんホールでは駐車場が少なく困っているので、駐車場はきちんと確保してほしい。
文化団体F	・もう何年もホールが迷走しているので、今度こそ県市が協力して整備してほしい。 ・気がついたらもう設計が終わっていることがないよう、県内の文化団体や舞台技術関係者の意見もしっかり聞いてほしい。 ・1階席のみを利用する場合は、なるべく小さな負担で運営ができるように配慮をしてほしい。 ・親子室を確保するなど、小さな子ども連れの親子が利用できるように配慮すべき。 ・公演の幕間などで一斉に殺到するので、特に女性用トイレが足りないということにならないようにしてほしい。 ・ホリズント幕後ろに通路を設け、リノリウムが張れるようにしてほしい。 ・オペラカーテンを設置してほしい。 ・可能であれば、リハーサル室は単独でも貸せるような仕組みを作れるといい。 ・リハーサル室には、鏡とバーは付けてほしい。 ・搬入ルートの設定は慎重に行うべき。 ・搬入ヤードと舞台の間には遮音のための扉を適切に設けてほしい。 ・エントランスについて、新ホールだけではなく、あわぎんホールの顔となることも見込んで配置をすべき。 ・観客の駐車場はなるべく多くの台数を確保してほしい。 ・出演者や裏方スタッフに向けた主催者駐車場を充実してほしい。

ヒアリング先	意見
文化団体G	・プロの活動だけではなく、県民の活動にもしっかりと配慮し、多様性が担保される文化振興の拠点になってほしい。 ・高校生がここで舞台に立ちたいと思えるようなホールにしてほしい。 ・すべてのジャンルが同じというわけではないかもしれないが、1000席以上の座席数が確保できていれば全国大会開催の可能性が出てくる。 ・ボタンは舞台奥行きにあった数をしっかり確保してほしい。 ・県内団体は照明機器等を自前で全て用意することは難しいため、ある程度はホールに備えてほしい。 ・本番前の仕込み時に、照明ボタンを上げ下ろしするのは大変な場合があるので、フライブリッジを設置してほしい。 ・シーリングライトからの灯りがホリゾン幕までしっかり当たるように調整してほしい。 ・緞帳は個性的なものより、画が入らない絞り緞帳などの方が使いやすいのではないか。 ・客席の壁や舞台は演劇などの演目にも配慮をした色合いにしてほしい。 ・台詞が明瞭に聞こえるよう、残響が短い演目にも対応した音響にしてほしい。 ・ある程度の人数が収容できる大楽屋がいくつかあるといい。 ・多目的スタジオは県内に同規模の施設もあるので、よくある造りよりは、新たな文化創造に向け、挑戦的なことができる攻めた造りにしてもいいのではないか。 ・東京で作られた作品の巡回公演が多くなってしまいがちだが、逆に地方で作ったコンテンツを東京に持って行くような流れも必要ではないか。そのためには活動室機能も重要。